

# チーム医療推進と役割拡大

厚生労働省のワーキンググループにおいて、良質な看護サービス提供のため、従来の看護業務における特定行為（医行為）の実施のあり方などが検討されてきました。その施策のなかで「チーム医療」が挙げられ、これらを推進するために、「看護師特定能力認証制度」（後の「特定行為に係る看護師の研修制度」という枠組みが誕生して、試行事業が行われています<sup>2)</sup>。

この「役割拡大」ですが、日本褥瘡学会の『チー

ム医療推進委員会』においても、看護師だけでなく、薬剤師、理学療法士、管理栄養士といった褥瘡対策に係る各職種の役割分担・役割拡大について話し合われています。後に少し触れますが、済生会吹田病院では看護補助者との役割分担も積極的に進めています。これからの時代を見据えるなら、医療現場における各職種間での壁を作っている場合ではないといわざるをえません。

## 試行事業対象看護師のケア介入の実際

### 症例 80歳代の男性

〔主訴〕 脱水  
 〔既往歴〕 特になし  
 〔入院までの経過〕 最近2週間ほどで徐々に食事がとれなくなり動けなくなった。すぐに褥瘡発生したため、妻（元看護師）が適宜消毒し、ガーゼをあてていた。  
 〔入院時の状況〕 意識は清明、褥瘡多発（仙骨部・両臀部・左背部・右外果にあり）。CRP 14.3 mg/dl, Alb 1.8 g/dl, HGB 6.3 g/dl, RBC 183 10<sup>4</sup>個/μl, BUN 74.4 mg/dl, CRE 1.67 mg/dl

### 経過

ここでは、右外果の褥瘡の経過について解説します。介入時 DESIGN-R<sup>®</sup> は 27 点（図1）、創全体は壊死組織に覆われていました。ABI 測定は右 1.10, 左 0.98 であり（図2）、血流に問題はありませんでした。全身状態を確認後、デブリードマン（sharp debridement）を行い、DESIGN-R<sup>®</sup> は 39 点となりました（図3）。

滲出液が多量であり、吸収能がある抗



図1 介入時の右外果褥瘡



図2 ABI（足関節/上腕インデックス）測定  
 褥瘡回診時に対策チームとともに血流評価を実施する

菌外用薬を使用して毎日創部洗浄を行いました。創面環境調整（WBP：wound bed preparation）のためのメンテナンスデブリードマン（maintenance debridement）（図4・図5）を処置参加のたびに行い、ときに微生物検査で感染徴候を確認しながら、外用薬やドレッシング材を選択しました（図6・図7）。

### 創傷マネジメント

入院中の体圧分散寝具・ポジショニング、体圧値のチェック、適宜足の血流評価、これらに関しての病棟スタッフへの指導、栄養状態改善のためのNSTとの連携、主治医への褥瘡処置時の疼痛についての情報提供とコントロールの提案、在宅支援部（MSW、看護師長）とともに退院後について患者の妻を含めた話し合いを行うなど、皮膚・排泄ケア認定看護師（褥瘡専従管理者）として、従来通り創傷マネジメントを行いました。しかし、医師の毎日の介入が無理だったこと、多発褥瘡のためそれぞれの部位にデブリードマンが必要だったこともあり（仙骨部褥瘡には局所陰圧閉鎖療法：negative pressure wound therapy 実施）（図8・図9）、試行事業対象看護師として行うべきことは、タイムリーなメンテナンスデブリードマンです<sup>3)</sup>。実践内容は指導医に適宜報告します。

DESIGN<sup>®</sup>-R19 点以上は治癒には3か月以上かかると報告されていますが<sup>4)</sup>、DESIGN<sup>®</sup>-R39 点が3か月以内で確実に治癒へ向かっていることから、介入当初から処置参加のたびにデブリードマンを実践したことは効果的だったと考えます。



図3 介入日のデブリードマン実施後  
 血流に問題ないことを確認してから実施する



図4 処置参加時のデブリードマン



図5 介入2週間目  
 カデックス<sup>®</sup>外用散を使用



図6 介入8週間目

ハイドロサイト<sup>®</sup>AD ジェントルを使用。クリティカルコロナイゼーションを認めたため、カデックス<sup>®</sup>軟膏を併用することもあった



図7 介入11週間目

呼吸状態が悪く全身浮腫も著明となるが、褥瘡サイズは縮小した。ハイドロサイト<sup>®</sup>AD ジェントルを使用



図8 電気凝固メスによる止血  
 ポケット一部切開とデブリードマン後に凝固モードを使用しての止血（指導医の直接指導のもと）



図9 仙骨部褥瘡の陰圧閉鎖療法  
 陰圧閉鎖療法の交換時、適宜デブリードマンを実施